**地震発生からの対応状況**

・3月11日（金）14：45　地震発生（三春町：震度６弱）

15：30災害対策本部設置　町民144名町内公共施設に避難

19：00菅首相原子力緊急事態宣言・周辺住民避難指示

・3月12日（土）15：30　原発1号機建屋水素爆発

　　　　　　　　　原発20Ｋｍ県内避難指示により、夜にかけて大熊町・富岡町を主に避難住民を約2,000名受入れ

・3月13日（日）避難所において、Ｔ町では「安定ヨウ素剤」を希望者に配布

　　　　　　　　「安定ヨウ素剤」を初めて知り、その調査を町職員に指示

　　　　　　　　保健師を中心に町内医師・薬剤師の協力を得て「安定ヨウ素剤」の効用・服用方法・副作用のどの情報収集

・3月14日（月）11：00　原発3号機（ＭＯＸ燃料）も水素爆発

　　　　　　　　　県へ放射能の数値の公表を求めるも分からないとの回答

県災害対策本部で40万錠の「安定ヨウ素剤」を保管していることを確認し、三春町の対象人数7,248人・3,303世帯分の譲与申し入れを快諾され、保健師が県へ受け取りに行く。

対象世帯への配布・説明の方法などを検討し、その作業に入る。

放射能の数値が心配されるなか、情報は得られず、15日の予想天気は、風向きが東、午後から雨であり、深夜に緊急課長会議を開き、「安定ヨウ素剤」の15日配布を決定。

子供用の顆粒を錠剤とするため再度、深夜に県へ受け取りに行く。

徹夜で、配布準備作業を完了させる。

・3月15日（火）6時頃原発2号機・4号機で爆発

　　　　　　　　　町内2か所に風向を見るため吹き流しを設置（東風確認）。放射能の数値の情報は依然得られず。午後は雨が降る予報。インターネットにより茨城県東海村で通常値の100倍を検出の情報を得る。

　　　　　　　　　避難している２町の責任者も「安定ヨウ素剤」を本日配布・服用させる判断をした。

**町民の安心・安全を守るため、町内８か所の施設で午後１時の配布に合わせ**

**保健師・看護師を配置し、「安定ヨウ素剤」を説明し、服用を指示した。**

**町は「その時点でのベターな判断をした」と思っている。**

結果として、副作用のでた方もなく、町民から評価はあっても批判はない。

＊マスコミ報道などにより、県の１担当者からは回収の依頼があったが、県としての公式

　な見解は示されていない。後日談として国が16日に避難者に投与を指示したこと。県が

　各市町村に配布をしていることが確認された。国は18日「安定ヨウ素剤」を配布する場合は、

　医師だけでなく保健師・看護師の立ち合いで可とする事務連絡を行った。（三春の対応を追認）